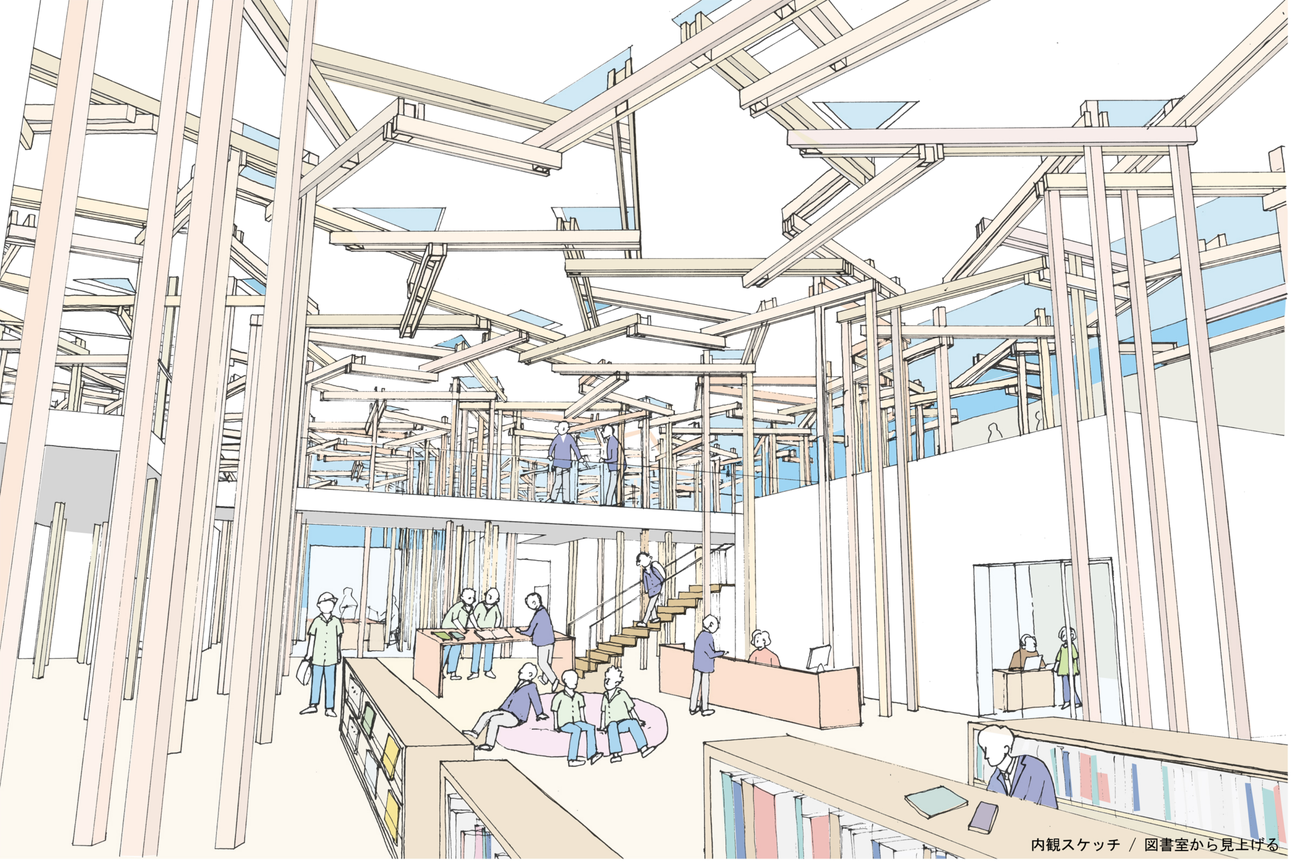

内観スケッチ / 図書室から見上げる

熊本県球磨工業高校管理棟改築設計競技

広場として考える

木で編むレースのような柔らかなフィルター

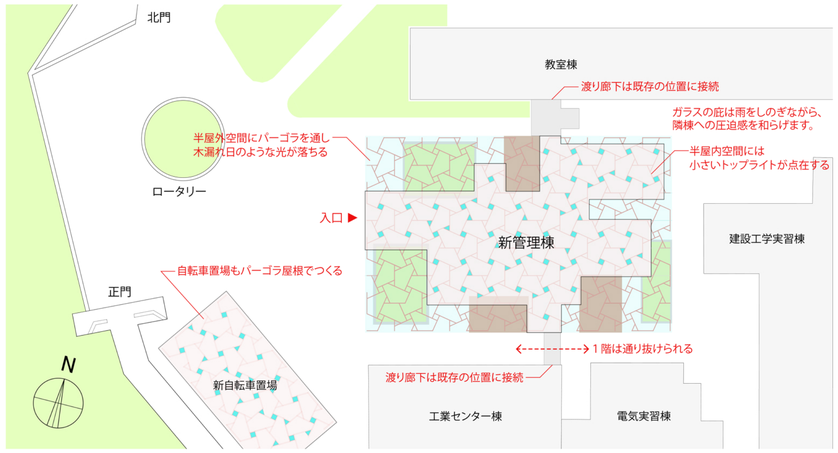
この場所は、既存建物に囲まれた広場のような場所です。ここに建つ建築は、学校の管理施設という役割だけでなく、オープンで自由な交流や往来を生み出す重要な空間装置となります。

２層分のパーゴラ屋根をかけ、必要最小限の管理諸室を壁で囲い点在させています。パーゴラは、**県産材を使い**、重ね継いだ細い梁で構成されています。梁の隙間のトップライトの光とともに、**レースのような柔らかなフィルター**となり、穏やかで優しい、人の集まりたくなる空間をつくりだします。

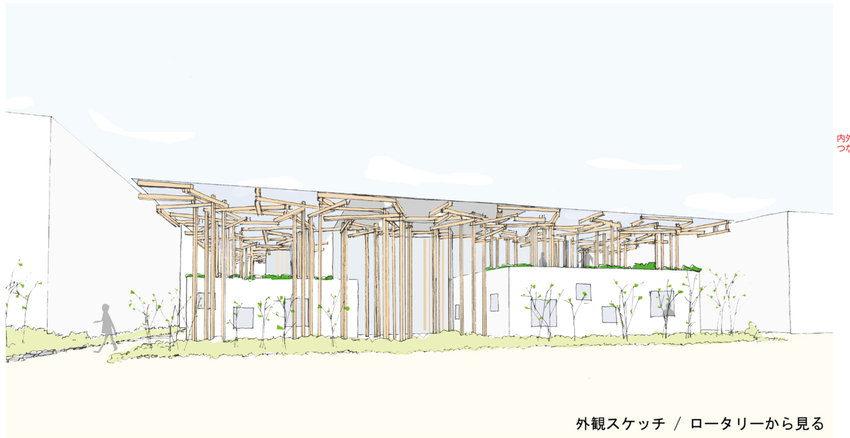
つなぐ場として考える

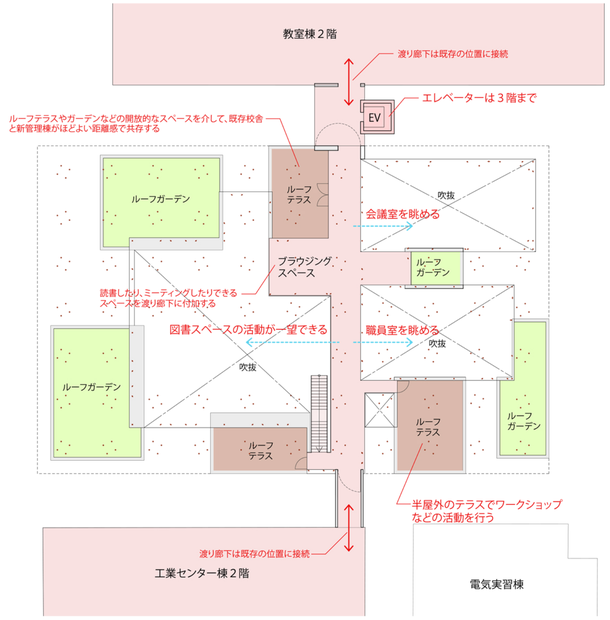
開かれたパブリックスペース

当施設は、**教師と生徒、来客者と学校をつなぐ場**です。２階まで吹き抜けた、ゆったりとしたオープンな空間は、生徒と教員の視線や気配をつなぎ、交流を促します。また、来客者にとっては学校の雰囲気を感じられる場になります。

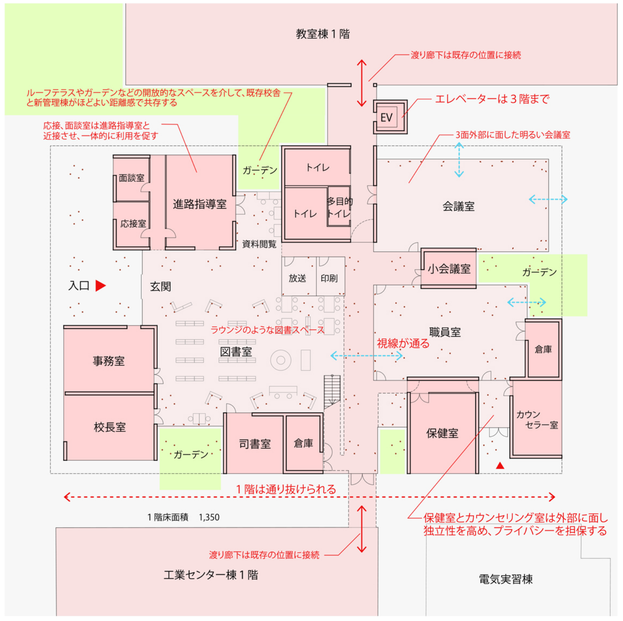


配置図 1/500

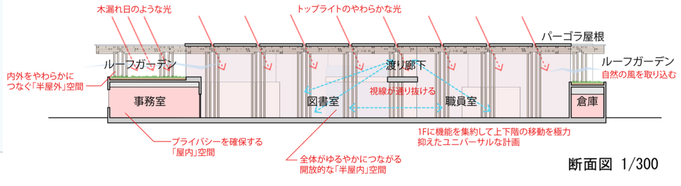

外観スケッチ / ロータリーから見る



２階平面図 1/300

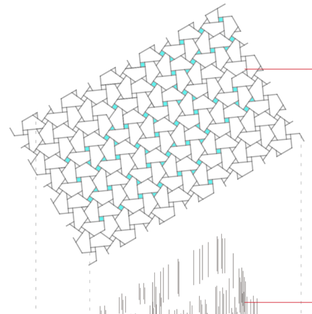


１階平面図 1/300



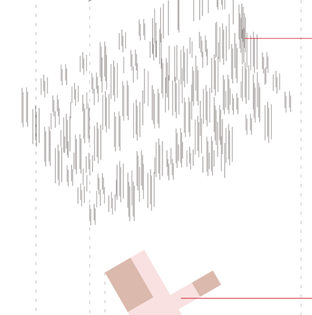
断面図 1/300

立面図 1/300



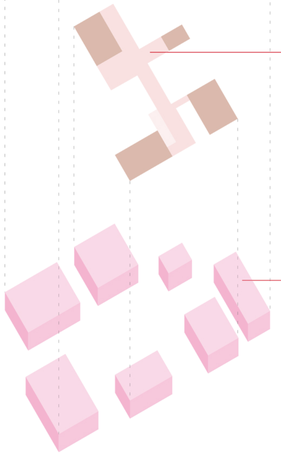
レースのようなパーゴラ屋根

パーゴラ屋根によって、半屋内空間と半屋外空間を作り出します。
パーゴラは、断面の小さい木材の重ね透かし梁で出来ています。梁の隙間からトップライトの光が差し込み、**レースのようなやわらかいパーゴラ屋根**が出来ます。



細い木による組柱

４本の細い木で組柱を作ります。
大断面の集成材ではなく、**小さい断面の製材**で組柱をつくることで圧迫感をなくし、空間にリズムを生み出します。
また、柱の間を空け、通り抜けられる組柱にします。



吹抜を通り抜ける渡り廊下

教室棟と工業センター棟をつなぐ渡り廊下は吹抜のラウンジを通り抜けます。
ブラウジングスペースに立ち寄ったり、ルーフテラスで話したり、吹抜を見下ろしたりしながら、図書室や職員室と有機的につながります。

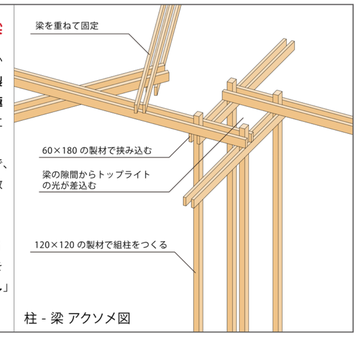
管理諸室が入るボックス

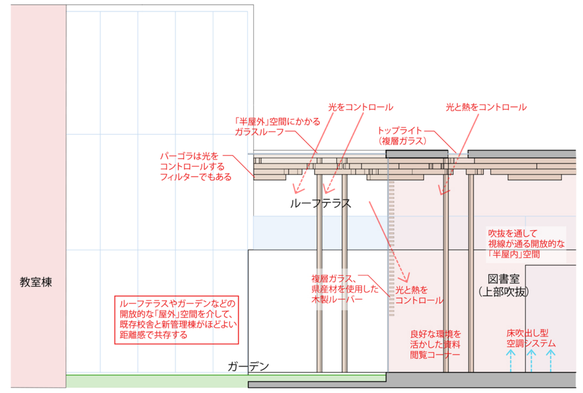
進路指導室や保健室などの管理諸室は防火壁で作ります。
プライバシーを守るだけでなく、残りの木構造のオープンなスペースを 1000 ㎡以内にして、構造材の防耐火対策をなくしています。

製材による組柱と重ね透かし梁

小さい断面の製材による組柱と重ね透かし梁による木構造です。**流通量の多い製材**で構成されているので、**県産材の積極的な利用**が出来ます。また、地場の施工者による施工が可能です。
修繕やメンテナンスが容易な構造なので、ワークショップの実習として、生徒や教諭が参加することも可能です。

木構造部を 1000 ㎡以内にし、防耐火対策が必要のない空間にすることで、木を構造的に必要な大きさのまま「**あらわし**」で使用できます。



柱 - 梁 アクソメ図

概算工事費　建築　200,000　構造　150,000　設備　80,000　外構　20,000　計　450,000（千円・税込）
面積表　１階　1,350 ㎡　２階　225 ㎡　３階　40 ㎡　計　1,615 ㎡（木造部 970 ㎡ / RC 部 645 ㎡）